

カラスはこわくない

風間 美穂

●春は鳥の子育ての季節

平成 27 年度に岸和田市内の小学校で使用する理科や生活科の教科書を見ると、4 月から 5 月にかけて学習する単元のなかに、「春のしぜんをみつけよう」や「こうてもたんけんしてみよう」など、身近な春の自然を探る内容があります。今回は、それに少しでも役立つ内容をとということで、春の校庭で見られる「カラスの子育て」について紹介します。

鳥にとって春は、巣をつくって産卵し、ヒナを育てる季節です。学校の校庭を観察すると、キジバトやヒヨドリ、スズメなどの巣が見られます。どんな鳥がどの場所に巣をつくるかは、fromM バックナンバー第 43 号「学校の校舎で子育てをする鳥たち」や、第 51 号「校庭の樹木で子育てをする鳥たち」をごらんください。

※バックナンバーはきしわだ自然資料館ホームページで見ることができます。

●カラスの巣はどこにある？

カラスも校庭で子育てをする鳥のなかまです。校庭では、メタセコイアやクスノキ、ヒマラヤシーダーなどの背の高い木に、枯れ枝や針金ハンガーを積んでつくった巣が見られることがあります(写真 1, 2)。岸和田に生息するカラスは、2 月末から 4 月初旬に 1 週間くらいかけて巣をつくり、4~5 個の卵を産みます。樹木が葉を落とす冬には、巣が目立ってしまい、どれだけ大型の鳥でも、子育て時期は捕食者に狙われやすくなります。そのため、葉が茂るところに隠して巣をつくることで、卵や雛^{ひな}をとられないようにするのでしょう。



写真 1. カラスの巣 (2014 年・阪南市尾崎漁港)



写真 2. カラスの巣 (2014 年 5 月 22 日・岩湧山林道で落下していたもの)

●カラスは2種類

岸和田市内の学校で子育てするカラスには、ハシブトガラスとハシボソガラスの2種がいます。どちらも色は黒く、大きさも似ていますが、よく見るとハシボソガラスのほうがひとまわり小さい傾向があります。外見もよく似ていますが、くちばしから額のあたりを見ると、ハシブトガラスのくちばしは長くて太く、少しアーチ状に曲がり、額の部分が羽で丸くもりあがっています。一方、ハシボソガラスのくちばしは曲がらず、素直な形をしています（写真3）。といっても、カラスを近くでじっくり見る機会



写真3. ハシボソガラスのくちばし

はなかなかありませんね。もっともわかりやすい見分け方は「鳴き声」です。「カア、カア」と澄んだ声でなくのが、ハシブトガラスで、テレビなどで夕方の効果音として使われるカラスの声はほとんどこちらです。一方、「ガア、ガア」と濁った声で鳴くのは、ハシボソガラスです。ただ、ハシブトガラスは、怒ると「ガララララ」と濁った鳴き声になることがあります。しかし、ハシボソガラスがハシブトガラスのように澄んだ声で鳴くことはありません。このようにカラスは、姿が見えなくても、鳴き声でだいたい区別することができるのです。

遠くにいて鳴き声がよく聞きとれない場合は、鳴くときの姿勢も見分けるポイントになります。ハシブトガラスは、体を水平にしてあごを突き出し、しっぽを降りながら鳴きます。一方、ハシボソガラスは、胸のあたりを膨らませてあごを引き、おじぎをするように鳴きます。

●カラスは怖い？

よく、「カラスは怖い」、「目があったら襲いにくる」などといわれますが、カラスは何もしないのに急に人を襲うことはありません。カラスが人間を襲うような行動をとるのは、雛を守るとき、それも飛ぶのが下手な巣立ち雛が地面にいるのに、気づかず近寄ってしまったときくらいです。その証拠に、人がカラスに襲われる事故は、雛が巣立つ5月から6月ごろに集中して発生しています。

またカラスは、何の前ぶれもなく急に襲ってくることはありません。ふつうはその前に、「グルルルル」、もしくは「カカカカ」といった変な鳴き方をしたり、周囲の枝をつついてポキポキと音を出したりして威嚇してくるのです。変な鳴き声をしたカラスがいることに気づいても、その場を離れればもう襲ってくることはありません。実際私は、カラスの巣の観察を長年行っていますが、これまでカラスに襲われたことはありません。いきなりくちばしでつかれたと話す人もいますが、カラスは飛びながらくちばしでつくことはできません。

児童や生徒の安全を守る必要がある学校としては、そんな恐ろしい生物は放置できないというお気持ちも分かりますが、岸和田市内の小中学校にある大木には、たいていカラスの巣があるものなのです。それでも襲われたりしないのは、みなさんがカラスの巣に気づかずそっとしているからでしょう。それは、カラスにとってありがたいことなのかもしれません。でも、今年はあえて、子育てしているカラスの巣を、遠くからそっと観察してみませんか？人と野生動物の距離を考えるよい機会になると思いますよ。

（かざまみほ：自然資料館）

文化財建造物の保存と植物材料

山岡 邦章

現在、積川町では国指定重要文化財である積川神社本殿の解体修理工事が実施されています。積川神社は三間社^{さんげんしゃ}流造^{ながづくり}といって、正面側の屋根が大きいのが特徴です。その屋根には檜の皮が葺かれていて、これを「檜皮葺き^{ひわだぶき}」といいます。これは日本独特の屋根葺きと言ってよく、海外では例を見ないものです。

なぜ、檜の皮で屋根を葺くのか？それは、薄い皮を沢山敷き詰めますので、曲線の表現が自由であり、瓦葺の屋根などに対して、鋭く優美な曲線を描ける点にあります。檜の皮自体は素材的には腐りやすいものですから、そもそも屋根の素材に適しているとはいえません。しかし、檜皮葺きは格式の高い建物に用いられ、日本でも多くの神社建築に用いられています。やはり建物の屋根の形に拘った結果の産物なのでしょう。



檜皮はもちろん檜から作られます。しかし、檜の皮を剥がすだけでは屋根の素材にはなりません。「しつらえ」といって、長さを揃え、厚みを揃え、形を整えてはじめて屋根の素材となるのです。檜に関しても、どんな檜でもいいかといえはそうでもなく、植えてから最低でも約 10 年経った檜になってはじめて皮を剥くことができます。そして次に再び皮を剥くことができるのが、およそ 8 年後です。ですから需要建築物数に対して単純に約 8 倍の森が必要になる計算です。つまり膨大な檜の森が必要になるのです。

今回、積川神社に使用される檜皮は約 3 万枚。基本的にはおよそ 70 cm の長さの檜の皮を 12 mm ずつずらして重ねてゆきます。屋根師と呼ばれる職人さんたちが、1 枚 1 枚、竹の釘で止めてゆきます。この竹の釘も普通の釘ではありません。1 本 1 本加工され、油気を出すために炒り加工がなされた釘で、孟宗竹^{もうそうちく}ではなく真竹が使われるそうです。そして日本に 1 社しかこの竹釘屋さんは無いそうです。

こういった気の遠くなるような手間をかけて、文化財は修復されます。「じゃ、材料を変えて簡単にできるようにしたらいい」とも思えますが、文化財とは文化財を保護するのが最大の目的なのですが、こういった文化財の修復技術を伝承することも保護の目的に含まれます。きちんとした材料を使い、きちんとした手法で保存修理する。その体系を維持することこそが文化財の保護なのです。檜にとって皮を剥がれることはどうなのでしょう。私達には檜の痛みはわかりません。しかし、枯れずに 8 年後にまた皮を剥けるということは、絶妙に人と樹木が折り合いをつけているということなのでしょう。

(やまおかくにあき：郷土文化室)

Information

■岸和田城の展示案内■

企画展「没後 77 周年 近代考古学の父 濱田青陵」

濱田青陵（耕作）は考古学だけではなく、西洋史や美術史を研究し、京都帝国大学の総長も務めました。また、絵画やしゃれた絵手紙も数多く残されています。作品から青陵の人物像に迫ります。

日 時：2015 年 3 月 11 日(水)～2015 年 7 月 12 日(日)

時 間：午前 10 時～午後 5 時（入場は 4 時まで）

場 所：岸和田城天守閣

入場料：大人 300 円，中学生以下無料

主な展示資料：

- ・肖像写真，著書，静物画，書簡，絵手紙など

【きしわだ自然友の会 会員募集】

きしわだ自然友の会は、自然資料館と協力し、独自の行事や出展、会誌などを通して自然を楽しく学んでいる団体です。

自然が好きで、生物や地学をもっと楽しみたい・学びたい人は、ぜひご入会ください。未就学児の方も参加できる行事も多数あります。

学校園の授業に活用できるプログラムもあります。

- ・対 象：身近な自然に興味のある個人・家族
- ・期 間：4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
- ・費 用：個人会員年間 2,000 円（中学生以上の方が 1 人で入る場合）・家族会員 3,000 円（同居家族全員が対象）、特別会員年会費 10,000 円（友の会を援助してくださる人・団体）

きしわだ自然友の会（自然資料館内 072-423-8100 へ）

遠足や社会見学に、自然資料館をご利用ください。

自然資料館は、大阪南部のいろいろな自然を紹介する自然史博物館です。

展示室には、化石などの実物標本や模型、ジオラマ、体験コーナーなどがあり、見て、ふれて、体験することで、身近な自然をしっかりと学ぶことができます。

春の遠足や社会見学などに、ぜひご利用ください。ご予約のうえ、減免申請書を提出していただくと、教職員をふくむ全員の入場料が無料となります。雨の場合のみの予約も可能です。

近くには、岸和田城や城下町など、歴史の勉強ができる施設もあります。

※お願い [fromM] は、学校教職員に 1 部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
(Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)

- ・ 申込・問い合わせ：4 月 1 日から直接、きしわ